

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立藤塚中 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 須田 剛

学校教育目標		学校経営の方針		
知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる		(1) 自他の「いのち」を大切にする心、個性や立場を尊重する心づくり (2) 心身ともに安心・安全に過ごせる環境づくり (3) 一次意識を受け止め、二次意識を育てる心づくり (4) 共に学び、わかる喜びを実感させ、主体的な学習態度を養う授業づくり (5) 創意工夫を凝らし、生徒と教職員が協力して創り上げる学校づくり (6) 保護者・地域に信頼される絆づくり (7) well-beingの視点に立ち、教職員が働きやすい環境づくり		
今年度の重点目標				
(1)社会的自立を目指した生徒支援の充実 (2)「学びに向かう力」の育成 (3)働き方改革「1gを減らそう！」プロジェクト(1プロ)の推進				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
自他の「いのち」を大切にする心、個性や立場を尊重する心づくり	1・2	○生徒会目標でのAIUE4原則(あいさつ強化・いじめ撲滅・歌声強化・エコ)の中で、いじめ防止に向けた取組を強化し、お互いの良さを認め合う活動を行った。 ○校内人権週間を設け、お互いの良さを認め合い、共有する時間「Good story」という活動を設けた。 ○「考える道徳」「議論する道徳」を実践し、様々な考えを尊重したり、自分自身の問題としてとられるようにした。また、担任外道徳を行い、様々な視点から道徳の授業を行った。	定期的に仲間を認め合う活動を行うことにより、他者理解や認め合う心が育まれた。授業や委員会活動ではもちろんであるが、言葉遣い・人との接し方など普段の指導を継続していくことが課題である。	○今年度の活動を継続していく。 ○道徳の時間に担任外道徳。担任ローテーション道徳を取り入れていく。 ○年度当初に、いじめに関する授業を行う。
心身ともに安心・安全に過ごせる環境づくり	1・2	○学校生活アンケートを毎月実施したり、学期始めには教育相談アンケートを基に教育相談を実施したりした。 ○YPプログラムを実施し、そのアンケートの結果を踏まえてプログラムを実施した。 ○今年度から校内支援フリールームを設置した。 ○避難訓練を実際の非常時に近づけるために、生徒に予告をせずに行った。	学校生活アンケートに書かれたことを、早めに学年の職員で共有することで、個々の生徒に対応することができた。また、引き続きYPプログラムを行い、その結果を分析し、それに基づいて各クラスに応じたアクティビティを行うことができた。校内支援フリールームでは、手探りな状態の中でも、母学級に入れない生徒が通うことで、学習や様々な活動を行うことができ、そのような生徒の居場所づくりができた。一方、見通しを持った支援に課題が残った。今後は、さらに専門機関や専門的な人からの見立てや指導方法を聞ける機会を増やしていく必要がある。	○教育相談アンケート、YPアンケートなどを必ず毎月1回行うこととし、生徒の声を受け止めることができる機会を確保する。 ○支援会議・学年会・ミニケース会議の充実

共に学び、わかる喜びを実感させ、主体的な学習態度を養う授業づくり	1・3	○ICT機器を活用したり、課題解決学習や自分が調べたり考えたりしたことを説明する活動を取り入れた小集団活動を行ったりして、主体的な学習態度を養う授業づくりを行った。 ○「学習評価と授業改善」をテーマに、1年間継続して校内研究を行った。	授業ではどの学年も自主的に活動する生徒が増えた様子がうかがえた。主体的に学習に取り組む生徒を育成する中で、評価を意識し振り返りがしっかりとできていると考えられる。また、生徒同士の意見共有・交換の中で自分の考えを広げたり深めたりさせることができた。一方、家庭学習では生徒自身が自主的に取り組めていないことが学校評価などから読み取れる。学習した内容を定着させるため、家庭学習の充実が課題である。	○単元の学習が見通せるよう、単元目標や評価基準、学習計画を載せた「単元構想表」をすべての教科で作成、活用する。 ○家庭学習の習慣づけを図るために、毎週、週末課題を出す。
創意工夫を凝らし、生徒と教職員が協力して創り上げる学校づくり	2・3	生徒会活動や学校行事、学級活動などを通じて、生徒に自治的な活動を多く促した。	委員会活動や学校行事では、リーダーを中心に自分たちでよりよい活動ができるよう話し合ったり、活動したりする場面を設けることができた。また、行事では、準備や練習、本番を通して、集団のために進んで取り組ませることができた。また、生徒会が企画した全校レクなどを通し、縦割りで行う異年齢集団の活動もできた。しかし、アンケートで、委員会活動や学級の係活動に自ら進んで参加している生徒の平均値が昨年度より下がっているため、どのようにして積極的に参加させられるか、ということが課題である。	引き続き、生徒会活動や学級活動各行事の活性化を図り、生徒に課題意識を持たせ、生徒の手によって学校生活の改善を図れるようにしていく。
保護者・地域に信頼される絆づくり	3	学校ホームページや学校だよりで、学校の様子を地域に発信した。また、青少年健全育成会等との連携を図った。	学校の様子を知ってもらうために、ホームページの更新を随時行った。また、防災訓練や年末美化清掃など、地域の活動に生徒が進んで参加できるような環境づくりを行った。	引き続き、学校運営協議会と連携し、生徒が地域の活動に積極的に参加できる方法を模索していく。また、学校を保護者や地域の方により知ってもらうために、年2回授業参観を開催する。合唱コンクールの学年リハーサルを、3学年同一日に行う。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校関係者評価委員会は2月28日に実施した。学校評価の内容と今後の取組について、ご理解をいただいた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育活動は、全職員の共通理解のもと取り組むことができた。
 生徒支援・指導面については、生活や授業のルールを守って学校生活を送っており、落ち着いて授業が展開されている。しかし、様々な理由から学校から足が遠のいていたり、教室に入れず仲間と共に活動できない生徒がいたりする。不登校生徒の増加傾向は本校の大きな課題となっており、集団に交わることが苦手な生徒やできない生徒を支援する環境づくり、居場所づくり、学習の保証が課題である。担任だけでなく、学年、教育相談コーディネーター、こころスマイル支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関との連携のさらなる強化が求められる。生徒を支援する環境づくりと学習の保証に努めていく。
 学習面では、基礎基本が身についていなかったり、つまずきを感じたりしている生徒が見られる。学力向上や家庭学習の習慣づけにむけて指導を継続しているが、その成果は十分であるとはいえない。教員の授業力の向上に取り組む、指導方法の工夫・改善を図るとともに、主体的に学習に取り組む態度を養っていく。授業や学習会などで個別支援をするだけでなく、話し合いや討論、グループ学習など共に学び合う学習の場を積極的に取り入れ、互いを支え合う授業づくりに努める。